

計 画 紹 介

1. アマゾン
2. サハラ

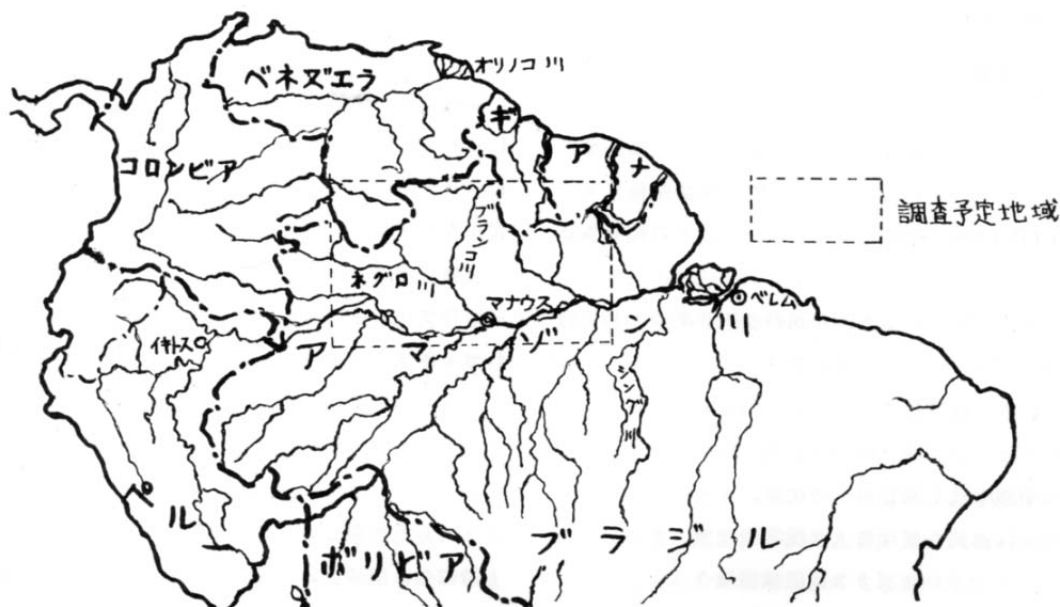
来年の春、夏と数多くの計画が企画委員会に提出されている。

そこで、今回はそれらの中からアマゾン計画とサハラ計画を取り上げることにした。両計画とも1971年春から約1年間という長期計画であり、ここでは、その計画概要並びに経過報告に留める。カリマンタン計画等とともに、今後の活躍が期待される。

その1

[1] アマゾン計画

松本 洋



私達のアマゾン計画はこれまでに企画説明会やその他の機会にも述べてまいりましたが計画書が12月には出来ますので趣旨、目的は計画書を御覧下さい。ここでは一応これまでの経過概略をお知らせ致します。

現在、私達の正式な名称は「アマゾナス踏査委員会」となっています。これには現在6名が参加しております。松本洋・川本康佑・杉井昭雄・津田僚一・藤本幸一・前裕健作の6名です。経過概

略は現在、記録係である前裕君の方のこれまでの歩み — 活動記録中間報告より抜粋させていただきます。

7月22日 松本、北条、杉井の3名にて集会
アマゾン探検計画を具体化

8月13日 企画委員会発足。計画概要決定。
実質的に計画準備にかかる。

8月16日 企画説明書の作成
海外移住事業団、丸善書店(地図)

ヴァリグ航空、三井商船

9月19日 隊務決定。渉外…松本、会計…川本、
装備…杉井、食糧…津田
調査地域、調査期間、調査分野と方
法の概略決定。

9月22日 関西方面の大学探検部に計画公表、
参加呼びかけ。

10月3日 神戸ブラジル領事館を訪ねる。

10月4日 藤本(民族装備・気象担当)前裕
(記録・通信担当)が計画に参加。
これで隊員構成がほぼ決定。

10月25日 松本・前裕、東京にて渉外活動
28日 上野国立科学博物館(新井、友田、
土居氏)、東京大学(丑田、和田氏)
東京農業大学(多紀氏)民族画家
(田畑氏)、水野水族館館長

11月12日 今後の計画推進の方針と日程を決定。
本格的に計画書の作成にかかる。

その他5回の集会、3回の企画説明会。杉原教
授、横田教授、竹本氏との話し合い。

現在、協力していただいている方々
新井良一氏(国立科学博物館、理学博士)
友田淑郎氏(国立科学博物館、文部技官)
多紀保彦氏(東京農大育種学研究室、東京農大ア
マゾナス遠征隊隊員)

この3氏の方には特にお世話になつています。
新井、友田両氏からは魚の採集、保存、輸送の面
やその他一般に亘つて、多紀氏よりは、南米事情
やアマゾンについて東京農大バックিং・リスト

採集リスト、インディオ保護局の規約書(これは
当方で複写)。

そのほかにも、大給近達、田中薫、中村守純、
九十九豊勝、田畑弘、和田正三、奥田隆男、土居
祥兌、泉靖一、久田迪天の各氏からいろいろ御協
力頂き、その他、紹介を受けた方々として、神田
鍊蔵、大倉興司、藤沼英郎、高瀬成一、山下太郎
の各氏をあげさせていただきます。

〈参考文献〉

「未知の裸族ラビチ」	飯山達男
「アマゾンの自然と社会」	多田文男
「ブラジル」	本間・伊藤陽三
「アマゾン河」	神田鍊蔵
「裸族シヤバンテ」	宮本信江
「バルトロカンリ」	東大カラコルム遠征隊
「バラワン島」	関学大
「世界冒険シリーズ」	マツグロツソ
世界の秘境シリーズ	
世界文化シリーズ	
「ガ・チュンカン」	長野岳人
「アマゾンの裸族」	ヘルムートシツク

以上、簡単ではありますが経過報告を致します。
外部的には、ビザの開始、インディオ保護局の問
題まで非常に難しい問題がありますが、これから
も勉強会、座談会、活動合宿などを通して、又渉
外など積極的にやつていくつもりです。

(社会学部2回生)



〔2〕 探検とは何であろうか

松 本 洋

私達が一番必要とするのは一体何であろうか。それは何かに賭ける夢と情熱だと思う。私が小さい頃知っていたアマゾン¹は夢の又夢であつた。しかし探検部に入つて初めて自分の夢が実現するという喜びを知つたのである。そして今、私は小さい時の夢であつたアマゾンに行こうという計画を企画している。何と夢のあるクラブであろうか。私達の夢を求めてそれを追ひ求めることの出来るクラブ。幼な子が取れもしない赤トンボを捕えるようなそんなクラブが探検と思う。そうした中でこそ私達の目指す探検は、純粋な学生探検としての活動が出来ると思う。単なる興味や憧れでそれを求められるとしたら、それは現在の複雑な社会組織にあつて異端的であるがそれは素晴らしい事だと思う。その為にも私達はどんな小さな興味やチツボケな事も馬鹿にしてはいけないと思う。いやむしろ、その小さな興味やチツボケな事が私達の芽となるのである。未知のものを求めてやまない心、これは素晴らしい事だと思う。何かに情熱を賭ける。これは若者だけの特権でないにしても情熱を賭けるということは忙事にしろ、勉強にしろ、恋愛にしろ見ていて気持ちのいいものだ。今私はアマゾンの未開民族と魚類調査という計画を持つている。今の複雑な人間社会においての私達の心も、石器時代の生活をしている彼等の心においても、お互いの生活様式は異つていても、その中にある心は何ら変わらないと思われる。何が一体、彼等裸族と私達高度化された現代人とを区別したのであるか。しかしながら押し寄せる交通の発達や資源の開発は、現在否応なしに彼等の生活を変革しようとしている。私達はその中であつて、私達の祖先が何千年か前に行なつていた生活様式を今なお残している彼等の生活、分け

ても風俗、農法、漁法、法、経済などについて、彼等と共に生活する事により、調査したいと思う。私達の目指すこの地域は人跡未踏の地域が限りなく残つている。もともと未知というものに憧れる私にとつてこの地域が情熱を駆りたてたのは言うまでもない。私は海が大好きだ。高校時代より泳ぐという事は自分の趣味を越えていた。だからまず最初にアマゾン河における魚というものに非常な興味を湧かしたのだ。この地域に2000種もの魚がおり、人の常識や概念ではかり切れない魚がいるということに対し民族と同様に非常に興味を持つている。これらの事は私の単なる興味に過ぎないかも知れない。又普通の社会においてはあくまで夢でしかなく、まず実現し得ないであろう。

しかし私達の探検部においては興味、冒険心、夢が努力を積み重ねる事により実現されるのである。探検部の活動は自分の目から見ても常識や概念を破つているものと思われる時が多々ある。しかしこの概念を破るということは時として無謀とも呼ばれ、又勇気ある試みとも賞賛される。

しかしどんな場合においても私達は学生という事を忘れてはならないと思う。しかしこの概念を破るという事は若い私達にとつて気持ちのいいものだ。

常識を破る、概念を破る、それが私達の探検部だと思う。そしてこの夢、この情熱、この迫力がこれまで歩んできた探検部であり、これからも歩まねばならない探検部の姿であろう。

(社会学部 2 回生)